

【学校教育目標】 ふるさとを愛し、夢の実現に向け 感謝の心を持って共に学び合う児童生徒の育成 ～対話・協働・探求・創造～		【本年度の重点目標】 不登校児童・生徒数の改善、未然防止 【数値目標：前期課程8人以下、後期課程18人以下】		
(A:できた B:だいたいできた C:あまりできなかった D:できなかった)		自己評価 (4:よい 3:だいたいよい 2:努力を要す 1:すぐに改善)		
分野	評価指標	自己評価	学校関係者評価	学校関係者評価を踏まえた改善策
学校経営	「学校の教育目標（重点目標）を達成するために、日常の教育活動に取り組んでいる」 ＜結果＞ 教員AB評価：94%	3.1	・先生方の自己評価が高いのは良いことだと感じる。自信をもって来年度も取り組んでほしい。	○義務教育学校として、前期・後期課程でさらに連携を深め、さらなる協働体制を推進していく。 ○教職員個々が主体的に参画する学校経営を目指す。
	「校務分掌の担当として、部で共通理解を図り、取組を進めている」 ＜結果＞ 教員AB評価：90%	3.2	・小中一貫の義務教育学校のメリットも多いと思うが、デメリットもあると思う。先生方で協力、連携し取り組んでほしい。	○前期・後期課程でさらに連携を深め、全職員間のコミュニケーションを活発に行うことを重点に、チームでの実践と改善を図る。
	「学級担任及び副担任が協力して、意図的・計画的に学級経営ができていく」 ＜結果＞ 教員AB評価：93%	3.2	・担任が一人で抱え込むことがないよう、日頃からの情報共有が大切だと思います。	○指導の共通理解の推進（児童生徒状況の情報共有・対話を密に行う）を図り、連携し統一した指導を行っていく。
	「学年会議で学年の課題の共有を図り、課題解決に向けた実践・評価・改善ができていく」 ＜結果＞ 教員AB評価：97%	3.4	・日頃からの情報共有や共通理解が大切だと思います。	○運営委員会や各種委員会の情報を学年会等で確実に伝達し、「報告・連絡・相談」の徹底を図る。
	「研修（校内・校外）に自主的・意欲的に参加して、実践的指導力の向上に努めている」 ＜結果＞ 教員AB評価：83%	3.0	・オンライン研修の優位性はあるのか。実際に集合する研修の方が意欲もわくし、良いのではないかと。研修の選定は、交流会や食事会などで交流できたらと思います。	○キャリアや専門性を向上させるための研修に積極的に参加できる体制をさらに整えていく。 ○前期・後期課程がお互いに学び合える校内研修を実施していく。
	総合 所見	「学校経営」に関して、年々教員の自己評価が向上し、前期・後期課程で着実に連携しながら教育活動に取り組み、学校教育目標（重点目標）を具現化しようとする教職員の意識が高まってきている。今後も全職員間のコミュニケーションを活発に行い、チームでの実践と改善を図り、協働体制を推進していく。		
教育活動	「児童生徒が意欲を持ち、進んで考えようとする授業づくり、わかる授業づくりを進めている」 ＜結果＞ 教員AB評価：84% 保護者AB評価：91% 「授業は楽しくわかりやすい」児童AB評価：86% 「主体的に授業に取り組んでいる」生徒AB評価：91%	3.1	・児童生徒が意欲を持って取り組むことができるようにICTを活用した授業づくりに取り組まれているのは、とても良いと思う。	○指導と評価の一体化を図った授業づくりに取り組んでいく。（児童生徒の実態・学習評価からの授業づくり） ○ICTを効果的に活用した授業づくりを行う。 ○課題解決に向けて主体的・協働的に学ぶ児童生徒の育成を目指していく。
	「自分の考えや条件を指定する等の思考を伴う「書く」活動を授業に位置付けている」 ＜結果＞ 教員AB評価：73% 「自分の考えをノートなどに書く」児童AB評価：85% 「根拠を明確に筋道を立て自分の考えを書く」生徒AB評価：81%	3.0	・書くことを鍛えていくのは必要だと思う。 ・ICTの活用も大事だが、自分の手で書くという活動も大切にしてほしい。	○理由や根拠とともに自分の考えを書く活動や終末場面で授業の振り返りを書く活動を位置付けていく。 ○「書く活動ポイント9」を活用し、思考を伴う書く活動を取り入れた授業づくりを推進する。
	「学力C・D層の児童生徒の学力向上につながるための創意工夫ある取組を行っている」 ＜結果＞ 教員AB評価：68% 「学力向上のために努力や工夫をしている」保護者AB評価：91%	2.8	・先生方は学力向上に熱心に取り組んでくださって学力が向上していると聞いている。先生方の負担も考えて学力向上を図ってほしい。	○算数・数学科、英語科、国語科において重点単元を選定し、分割授業（含む習熟度別）や少人数授業やTT授業を行い、きめ細かい指導に取り組む。 ○ICTを活用し、個に応じた課題に取り組ませる。
	「不登校児童生徒を生まない学級づくりに取り組んでいる」 ＜結果＞ 教員AB評価：84% 「日々楽しそうに学校に通っている」保護者AB評価：93% 「学校は楽しい」児童AB評価：94% 生徒AB評価：90%	2.9	・子ども達に「学校、楽しい？」と聞くと「楽しい！」と即答した。学校が楽しいと即答できることが素晴らしい。嬉しかった。	○不登校対策委員会で児童生徒の状況を共有して対応を協議し、関係機関と連携して取り組んでいく。（不登校の未然防止・早期発見・早期対応・継続的な支援）
	「いじめやそれにつながる事象をとらえ、予防的な指導を行っている」 ＜結果＞ 教員AB評価：91% 「友達に嫌なことをしたり、されたりしていない」保護者AB評価：91% 児童AB評価：89% 生徒AB評価：42%	3.1	・教員AB評価が高いのは、いじめの予防的な指導をされているということで良いことだと感じるが、生徒AB評価が低いことが気になる。先生と生徒との認識の違いがあるのではないかと。心を育てる教育の更なる推進をお願いしたい。	○いじめ早期発見アンケートを実施し、いじめの未然防止と初期対応の徹底を図る。 ○児童生徒が自分の状況や気持ちを安心して書くことができるように、カスタを活用して自宅で記入するなど、アンケートの取り方や内容を検討する。
	「児童生徒理解に努め、日々の教育活動において積極的な生徒指導をすすめている」 ＜結果＞ 教員AB評価：94% 「子どもをよく理解し指導している」保護者AB評価：91%	3.1	・日頃から情報を共有し、連携し統一した取組を行っていくことが大切ですね。	○生活アンケートやアセスの実施後に教育相談を行い、児童生徒一人ひとりが安心して学校生活を送ることができるよう取組を進めていく。 ○情報を共有し、連携し統一した指導を行っていく。
	「ふるさとを愛する児童生徒の育成を目指し、地域のひと・もの・ことを活用した学習に取り組んでいる」 ＜結果＞ 教員AB評価：57% 「稲築のことが好き」児童AB評価：96% 生徒AB評価：94% 「地域の行事に関心がある」児童AB評価：88% 生徒AB評価：76%	2.7	・「稲築のことが好き」と答えた子が多いというのはとても嬉しい。 ・今後も、ふるさと学習に取り組んでほしい。	○学校と地域（保護者・地域住民等）が目標を共有し、「地域とともにある学校づくり」を推進して、ふるさとを愛する児童生徒の育成を目指す。 ○9年間を見通した学習活動の構築を図り、総合的な学習の時間や社会科等でGTに来ていただいたり地域探検を行ったりしてふるさと学習に取り組む。
	総合 所見	学力については、書く活動や分割授業・少人数授業などのきめ細かい指導、継続したインスタの取組により、学力検査等において学力の向上が見られた。学校生活では、全校児童生徒が安心して過ごすことができるように、日頃から丁寧に児童生徒一人ひとりと関わり、さらにいじめや不登校の早期発見・早期対応に努めていく。		
児童生徒の状況	「児童生徒は、毎日楽しく学校に登校している」 ＜結果＞ 教員AB評価：90% 保護者AB評価：89% 「学校は楽しい」児童AB評価：88% 生徒AB評価：85%	3.1	・異学年の交流はとても大事ですね。今後も、ぜひ続けてください。	○来年度も、児童生徒が『登校して楽しい』と思えるよう、一人ひとりを大事にした学校づくりに取り組んでいく。 ○「いこいの広場」の遊具設置やサブグラウンドの整備により、全学年の外遊びを推奨していく。
	「児童生徒は、きまりを守って学校生活を送っている」 ＜結果＞ 教員AB評価：74% 保護者AB評価：90% 児童AB評価：88% 生徒AB評価：94%	2.9	・後期生徒が、前期児童の良いお手本となっているのがいいですね。	○「学校のきまり」や「生徒心得」を年度当初だけでなく、定期的に確認させ、規範意識を育成していく。 ○今後も全職員で共通認識を図り、統一した指導を行っていく。
	「児童生徒に、周りの人を大事にする言葉遣いや場に応じた言葉遣いが身に付いている」 ＜結果＞ 教員AB評価：50% 保護者AB評価：81% 「ほわほわ言葉を使って友達を大切にしている」児童AB評価：90% 「周りの人を大事にし、場に応じた言葉遣い」生徒AB評価：91%	2.6	・言葉遣いは、とても大事なことです。言った本人は、相手を怖がらせている等に気づかない。家庭の言語環境も大きいのではないかと。「ほわほわ言葉」はとても良い取組だと思う。日本語の良さ（「言葉」など）も伝えていくとよいのではないかと。	○全職員で日常的な言葉遣いの指導の徹底を図る。 ○次年度も、生徒会と児童会を中心として「ほわほわ言葉を広げよう」の活動に取り組み、相手を大切にしたい言葉遣いや行動を認め合い、称賛し合う活動を行う。
	「児童生徒は、基本的な生活習慣（生活リズム・挨拶の習慣・整理整頓・掃除）が身に付いている」 ＜結果＞ 教員AB評価：71% 保護者AB評価：67% 「早寝早起き朝ごはんができていく」児童AB評価：80% 「基本的な生活習慣が身に付いている」生徒AB評価：82%	2.8	・SNSに対するモラルについては、継続的に指導していくことが大切だと思います。保護者への啓発も重要であると思うので、保護者向けのメディア教育をぜひ行ってほしいです。	○SNS等について、今後もメディア教育を実施し、自己抑制力やモラルの向上を図る。 ○OPTAと連携し、研修等で保護者向けのメディア教育を行うなど、保護者への啓発に取り組んでいく。
	「児童生徒の様子を学校だより、学年・学級通信、家庭訪問や個人懇談会等で定期的に知らせている」 ＜結果＞ 教員AB評価：92% 保護者AB評価：93%	3.3	・学校だよりや学年・学級通信（毎週）で児童生徒や学校の様子を知らせている。 ・家庭訪問、個人懇談会（1・2学期末）、学習参観、学級懇談会（前期）を実施することができた。	○保護者や地域の方々に対して、積極的に学校や児童生徒の様子を丁寧に発信し続け、学校教育への理解や協力を仰いでいく。 ○本校ホームページの充実を図る。
	総合 所見	「児童生徒の状況」に関して、言葉遣いや基本的な生活習慣の定着が本校の大きな課題である。保護者も課題として捉えているので、家庭と連携して言語環境や生活環境を整え、児童生徒の健やかな心身の成長を目指して取組を進めていく。さらに、PTA研修等で課題に対する保護者への啓発に取り組んでいく。		